

今朝の学びは、イエス様の公生涯がいよいよ始まろうとしている箇所です。

イエス様がヨハネから紹介されて、メシヤイエスが登場するのです。

さて、そんなイエス様は、少年時代 どの様に過ごされたのでしょうか？

——— 少年時代のイエス様 ———

イエス様の少年時代については ルカ 2 章 41～52 節に、12 歳の時のことが書かれているだけで、それ以外の事は何も書かれてはいません。

聖書に書かれていない時のイエス様の事を少し学びましょう。

イエス様はナザレの村で、大工ヨセフの子供として育てられました。ユダヤでは家は木で建てるのではなく石で造ります。それで大工と言っても木で家を建てるのではなく、むしろ家具や農機具などを作る仕事であったと考えられます。

伝承によれば、父親のヨセフは早く死んだとのこと。よって長男のイエス様は、ヨセフに代わって家系を支えなければなりません。イエス様は貧しさの中で一生懸命働かれました。

主はその経験を通して、多くの人々の貧しさと生活の労苦を十分に味わわれたのではないのでしょうか。

(ルカ 3:23 節)「イエスは、働きを始められたとき、およそ三十歳で、ヨセフの子と考えられていた。・・・」ところが三十歳になると、イエス様は突然、ヨハネの紹介を受けるため、ユダヤの荒野に姿を現します。そして、そのヨハネからバプテスマを受けて、メシアとしての公生涯に入るのです。そんなヨハネの第 1 に大切な働き、使命は、イエス様を多くの世の人々に「世の救い主」として、紹介することでした。

——— ヨハネの誕生 ———

さて、そのヨハネの誕生も、イエス様の誕生と同じ様に、不思議な経過をたどります。

ヨハネ誕生の頃、彼の両親（ザカリヤとエリサベツ）はすでに年老いていました。子供など生まれるはずもない、そんな老夫婦の所に御使いが来て、子供の誕生を宣告するのです。その約束通りに男の子が与えられました。父ザカリヤは御使いから命じられた通りに、その子をヨハネと名付けました。ヨハネは誕生する前から、神様から一つの使命が与えられていました。その使命とは

(ルカ 1:17 節)「彼はエリヤの霊と力で、主に先立って歩みます。父たちの心を子供たちに向けさせ、不従順な者たちを義人の思いに立ち返らせて、主のために、整えられた民を用意します。」

ヨハネの少年時代の事は、聖書には何も書かれてはいません。しかし、ある程度わかって
いる事は、ヨハネはやがて成長し、世俗を断ち、荒野に出家隠遁、律法を学び、自らを訓練
し、神と交わり、当時、ユダヤ教の一派である、エツセネ派に属し、共同生活を始めます。
そして、そんなヨハネもやがて公生涯を迎え、いよいよ働きを開始するのです。

そんなヨハネの働きの目的はイザヤが預言（イザヤ 40:3 節）しています。
「荒野で叫ぶ者の声がする。『主の道を用意せよ。荒れ地で私たちのために、大路をまっす
ぐにせよ。』」ヨハネが神様から示された彼の人生は、神からの預言に応じる者となる事、
つまり エリヤのような預言者になることでした。

彼の働きは、①人々にイエス様を紹介すること。

②その人々がイエス様を信じて救われる様になる事でした。

私たちも、ある意味でヨハネの様な働きをしたいと思う時があります。その働きとは、「多
くの人々がイエス様の所に行けるようにすること、障害物を取り除いてイエス様への道を
平らにしてあげること」なのです。この様にして誰でもが、イエス様の所に行けるように、
行きたくなるように励まし、助ける事はとても大切な働きだと思います。。

ヨハネも公生涯を迎えて立ち上がりました。

(1～3 節)「そのころバプテスマのヨハネが現れ、ユダヤの荒野で教えを宣べ伝えて、『悔
い改めなさい。天の御国が近づいたから』と言った。この人は、預言者イザヤによって『荒
野で叫ぶ者の声がする「主の道を用意せよ。主の通られる道をまっすぐにせよ。』」と言われ
た人である。」

(4 節)「このヨハネはらくだの毛の衣をまとい、腰には革の帯を締め、その食べ物はいな
ごと野蜜であった。」まさにヨハネの服装と生活は旧約聖書のエリヤの様でした。

旧約最後の預言書のマラキの預言の中で、神様はエリヤの働きについて、次の様に語っ
ています。(マラキ 4:5、6 節)「見よ、わたしは、主の大いなる恐るべき日が来る前に、預
言者エリヤをあなたがたに遣わす。彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさ
せる。」

メシヤによるさばきの日が来る前に、神様はエリヤを地上に遣わして、父なる神に背いて
いるユダヤ人の心を再び、神様に立ち返らせると言うのです。

ヨハネは自分の使命を自覚して、自分がマラキ書で預言されていたエリヤである事を
人々に悟らせるために、わざわざエリヤの様な服装をしたと考えられます。

さて、マラキの時代で旧約聖書の預言は終わりました。その後 400 年間、長い沈黙の時
代が続きます。しかし、400 年後に神様はヨハネを最後の預言者として立てられました。そ

して、いよいよ新しいメシヤの時代が来たことを明らかに示しました。そして、ヨハネにその道の働きの開始を許されたのでした。

——— 悔い改めるとは ———

・(2節) さて、公の舞台に立ったヨハネの第1声は、人々に対して「悔い改めなさい。」でした。

「悔い改めるとは」とはどういう事なのでしょう。これは過去の過ちや罪を後悔する、悲しむことではありません。むしろ、心を入れ替えること。態度を変える事なのです。心を180度方向転換させるという意味です。つまり、今までの、神様に背を向けていた生き方をやめて、方向転換して、今度は心を神様に向かって生きることなのです。

(ルカ 15:11～32節)「放蕩息子のたとえ」がこの事をよく教えています。

この息子は父に反抗しました。親に逆らい自分の自由を求めて、父の家から出て行きます。やがて、自分の罪に気づき、悔い改めて父のもとに帰って来ます。ここに本当の意味の、悔い改めが示されています。日本では、しばしば後悔と混同されています。後悔とは、何かをした後に、しなければ良かったと悔いる事です。しかし主はいつも悔い改めを求めています。

・さて、ヨハネの第2声は「天の御国が近づいたから」でした。天の御国と、神の国とは同じです。マタイは福音書をユダヤ人に宛てて書いています。ユダヤ人は「神」という名を呼びません。ですから「天の御国」としたのです。まことの神様が王の王として人々を支配する時が近づいています。ですから、私たちは聖なる神様の前に出るために、しっかりと罪を悔い改めて、聖い御国に入る。備えをいたしましょう。

最後に2つの神の国を確認しましょう。

- ・1つは、心の中の神の国です。イエス様を信じて心に受け入れれば心が神の国となります。
- ・2つ目は、私たちがやがて必ず行くところ、永遠の神の御国です。

その、御国に今、私たちはぐっと引き寄せられています。ともに、御国を目指しましょう

そして、私たちも多くの人々が住んでいる、現代の荒野で声を出しましょう！

「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」

荒野でのヨハネの声を聞いて、多くの人々が彼の下に集まって来ました。こうして大多数の人々は祝福のバプテスマをヨハネから受けることが出来ました。

(5,6節)「そのころ、エルサレム、ユダヤ全土、ヨルダン川周辺のすべての地域から、人々がヨハネのもとにやって来て、自分の罪を告白し、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けていた。」 ハレルヤ！

このような御業が、この新しい年、私たちの回りで起こるように、主に期待しましょう。